

日時：令和5年8月23日(水) 10:00～12:00

場所：国土交通省6階局議室(Web併用)

※資料に基づき説明がなされた後、下記の意見交換がなされた。

○意見交換

【令和5年度のスマートシティの推進に向けた取組】

(実装事例の調査による知見集の改定に関して)

- この5年間で、いろいろな地域が取組を進めて、実装100地域を達成させ、スマートシティの考えや言葉が広がってきたことは大きな成果。一方で、実装は簡単ではないのは理解。実装に向けては、ビジネスプランやマネタイズがしっかりしていることが重要だと認識。
- ヒアリングでは、もっと規模の小さい自治体の実態をきいてみたらどうか。資金確保など貴重なヒントがあるかもしれない。

(分野間連携のユースケース作成に関して)

- 「まず目的(実現したいこと)があって、そのために分野間連携が必要」とならなければ、なかなかいい事例が出てこないのではないかな。
- 手段でパターンを分けるのではなく、「誰にとって何の価値があるのか？」を明確にして、整理すべきではないかな。
- 分野間連携では、他部局からの協力を得る必要があるのではないかな。そういう意味での人材育成も課題となっているのではないかな。

(スマートシティの推進に向けた今後の取組)

- 本来、スマートシティ導入に向けての全体仮説を立て、どこに課題があるのか分かった上で実証事業を行うから実装につながる必要があるのではないかな。そのうえで何をすれば「実装」なのか。「実装」にも定義が必要。
- 日本のスマートシティは、デジタルを使って何かやろうとして、やりやすいものから実装しようとするために横展開が難しいものがある印象。全体のストーリーがあって、その中でデジタルというツールをどう使うかを考える必要。
- やろうとしている自治体に勇気を与える、また仲間を増やす方法が必要であり、「熱さ」を伝える視点も含め、自治体同士で意見交換・情報共有するかたちを目指す必要。
- スマートシティを推進していく上で、国として進めるべき方向性を提示するべきであり、ワーキンググループを作ることを含め、一層の議論が必要。

以上